

令和5年度第3回 名取市自転車活用推進協議会 会議録

1. 日時

令和6年3月22日(金) 14:00～15:00

2. 場所

名取市役所6階第3会議室

3. 出席者

別添名簿のとおり

4. 傍聴者

0名

5. 説明事項

1) 名取市自転車活用推進計画（最終案）について

2) パブリックコメントの実施結果について

- ・ 事務局より上記内容について説明。

3) 質疑応答

(森委員)

- ・ サイクリングルートのご案内について、パブリックコメントであったようだが、今回の計画の施策でもサイクルツーリズムの誘致ということもあり、施策について問題はないと思う。ただ、P.52にも、ルート紹介という記載があるが、知らない土地では、道が分からないこともある。我々のイベント時に地図を提供しても、迷子になることもあり、地図を見ながら走行するという事は難しい。そのため、GPSデータを読み込ませると、案内ができるシステムもある。案内板も重要だが、ルートの案内もGPSデータで提供できるシステムがあると道に迷わず、安全に走行できることから必要である。
- ・ スタートポイント（ゲートポイント）について、どこからスタートすればよいか分からない。自動車で来た際に、どこに停めればいいのかなど、そのような案内もしてほしい。名取市の例で言うと十三塚公園の広い駐車場があるが、公園利用者以外は停めないでくださいと書いてある。イベントが無い時は震災復興伝承館に停めている。そのようにゲートポイントとして使えるとルートの案内の中に表示すると訪れやすい。安全にも繋がる。

(事務局)

- ・ GPSデータについては、スマホを利用してルートを確認しながらサイクリングできるものを考えていきたい。ゲートポイントについては、本市ではサイクルスポーツセンターという大きなポイントがある。それ以外にも名所などで確保できる場所を検討していきたい。

(矢幅委員)

- パブリックコメントの 7 番について、サイクルスポーツセンターを利用したイベントなど記載されているが、当施設では「乗れない子の自転車教室」を開催している。こちらは毎回満員御礼のイベントとなっており、スタッフで受入可能な数を越えている。そのイベントに加えて今年度から乗れない子のプライベートレッスンを始めており、非常にヒットしている。その傍ら、サイクルスポーツセンターを利用したマラソン等が年々増えており、自転車とその他のバランスを考えていかなければと考えている。今後、サイクルスポーツセンターは自転車を活用するのか、もしくは市民に対する健康増進イベントになるのか、瀬戸際に来ている。

(事務局)

- イベントで貸し切りとなると個人利用ができなくなるという点については、施設として良いのか、また、マラソンイベントの実施は自転車利用施設としてはどうなのかという考え方もある。コロナも落ち着き、これからイベントが活発になる中で、収益性の視点を踏まえてバランスをとっていくことを検討して参りたい。

(矢幅委員)

- 自転車以外で使いたいという問い合わせが多い。そのイベントが過半数を超えるとサイクリストのための施設になるのか、課題として考えていかないといけない。市民の方に対して、サイクルスポーツセンターの利用方法について、自転車をメインとするのか、又は、自転車もできるし健康増進もできるというような働きかけが重要。

(星委員)

- サイクルスポーツセンターの運営を考えると収支的には自転車以外のイベントいれていくべきである。ただ、自転車活用する人が少ないことが問題である。自転車以外のイベントが行われて自転車を利用できないから困るというような声は上がっていないと捉えている。名取市として自転車をどう捉えていくのか。名取市として、自転車でまちを挙げていくのか曖昧な気がする。市がどのように考えて、力を入れていくのかがまず第一である。他のイベントが行われることがせっきくの施設であるから使っていくべきである。また、我々競技者として施設を使いたい、使いづらいという声が多いのは事実である。

(事務局)

- 計画を策定したということは一つの対外的な声明である。この計画を基に事業調整等を進めていきたい。サイクルツーリズムに特化し、自転車を推進するまちとして計画にも謳っている。これに近づけた事業展開は行っていく。

(星委員)

- 森委員からあったように、どこをサイクリングのスタートとするのかとあったが、サイクルスポーツセンターが一番相応しいと思っている。

(坂口会長)

- 市の本気度をこの計画にどう入れこむのか。

(事務局)

- 宮城県内では県と仙台市のみが策定しており、限られた市町村の中で策定している。本市はサイクルスポーツセンターを有しており、この施設を活かしたまちづくりをして行かない手はないとい

うことが前提としてあるため、計画を策定し、事業展開を進めていきたいと考えている。頂いた意見を参考にしながら、来年度以降は事業管理をお願いすることになるので、その時にも頂いた意見を含めて進めていきたい。

(森委員)

- 名取市の本気度には期待したい。公共施設を維持するためには多機能は避けられない時代である。サイクリストとして、サイクルスポーツセンターを使いたい時は初心者連れて練習をする時である。ただ、子どもが走っていて利用しづらい。コースを二つ分けて、多機能的に利用するのはどうか。また、ある時間はお子様を入れないで、サイクリストの利用にするなどの方向性はあっても良いのではないかな。

(板谷委員)

- トレイル文化の浸透について、自転車とはずれるかもしれないが、みちのく潮風トレイルのルート上でも草が生えていて歩きにくい箇所があるので、自転車の走行空間の整備と一緒にこちらをお願いしたい。

(佐々木委員)

- かわまちてらす閑上でも自転車ラックの利用者が年々増えている。何を見て自転車ラックがあるのかという時に、かわまちてらす閑上ではHPなどで自転車置き場を発信しているが、一般の方がわざわざ名取市HPを見て情報を調べるだろうか。それぞれ出している情報が違うと困惑するため、連携しながら同じ情報をしっかり発信したい。

(星委員)

- マップではないが、GPSで動いた軌跡を分かるサイクリスト専用のアプリがある。アプリに対してアプローチしてはどうか。

(事務局)

- アプリについて、DXとして市の情報を集約したり、情報を発信するシステムを進めている。ワンストップについては、例えばサイクルの情報は観光協会に依頼するなど、連携できるところと取り組んでいきたい。

(森委員)

- 情報発信で早いのは、SNSである。公式のハッシュタグを一つ決めて発信などすれば広がるのでは。組織を作るというのは役所では難しい。SNSを活用するだけで変わると思う。

(佐々木委員)

- P66の自転車購入補助の対象は、スポーツタイプも含めて検討なのか。

(事務局)

- 基本的には子育て支援やサービス向上につながるものとして補助を考えている。スポーツまで広げるかは前段での補助を実施してからこれからの検討となる。

(坂口会長)

- 高専にはアジアからの留学生も多い。タイでは自転車の修理を学校で習うため自分で直せると聞いた。自転車を自分で直す取組はどうか。
- 市役所の駐輪場は西側にあり、分かりづらい。自転車にやさしい市役所として駐輪場の整備を考えられれば良い。

(星委員)

- 本格的なロードバイクに乗っている方はほとんどの方が自転車を組み立てることができる。全部自分で組み立てることができる普及は必要である。コーチの資格等でもある程度のレベルで整備の講習を受けることもある。市民もママチャリの直し方程度等はある程度はあっても良いと思う。

(阿部委員)

- 情報発信として、アウトドアブランドのモンベルがあるが、自転車のイベント実施や自転車に特化したまちとして協定を結んでいる。モンベルと連携して情報発信するのも1つの手である。

(事務局)

- 情報を集めて官民連携で広げていきたい。

(森委員)

- 技術的に自転車を扱えるような育成は大事なことである。今のサイクリストは自転車店にお任せであり、自身で整備できない人が多い。どこまで深入りするのかという課題はあるが、今後、整備やエマージェンシーの講習により、自立性を持たせた自転車利用を進めることができる。

6. その他

- 事務局より

(星委員)

- 閑上大橋の歩道等との改修はどこになるのか。近々改修を行う計画はあるのか。

(事務局)

- 県である。改修については、橋台が現状以上拡張できないため、架け替えしない限りは拡張できないと聞いている。

(星委員)

- 柵もなく危険であり、一度降りて通行しなくてはいけないため、渡りやすくなれば、蒲生海岸からのルートもあり、交流が行いやすくなる。

(佐々木委員)

- 沿岸ルートだとトレイルセンター等にも行く上でも整備が必要である。

(事務局)

- 仙台市と本市の間で貞山運河の活用という話もあり、本市では周遊船を運行しているが、仙台市でも動きはある。例えば船で渡すということも考えられる。

(事務局)

- 今後、本協議会において、年1回事業の進捗報告を行う予定としている。時期等は再度ご連絡する。

令和 6年 3月 29日

会 長 坂口 大洋